


 ずいそう

仕事と資格

今村 一紀



高校時代は物理が得意で、数学の成績もそこそこだったので必然的に受験するなら工学部だろうと思ってきました。

将来どういう職業に就きたいというものが無かったため、工学部の中でも偏差値が高い学科に行けば選択肢も多くなるだろうという考えで電気工学科を選択しました。

大学に入ると自分のことはさておいて、悪い先輩や同輩が多くて勉強はせず、電気工学は得意であった物理とは接点はあるもののほとんどが違う世界で、研究室が決まる3年生の終わり頃には電気は向いていないのだろうなと思うようになっていました。

就職活動が始まるとそれなりの成績でもなかったので電気メーカー以外に目を向けておりました。

現在とは違い企業から送られてくる求人票を1枚1枚めくりながら探す状況でして、情報が非常に少なく決めあぐねていました。そんな中、就職担当だった研究室の先生のもとへ建設会社に行かれた先輩がリクルーターとして訪ねてこられたらしく、ゼミの後に「電気メーカー以外だったら先輩のいる建設会社はどうだ」と言われて受験しました。

そして1984年（23歳）に現在の親会社である建設会社に電気職として入社しました。

最初にシーケンス制御などの基礎の勉強を行った後に工事用仮設電気設備について勉強し、10月には先輩が設計された工事の電気設備担当として現場に行きました。

入社して半年の新入社員に「一人で現場に行ってみてこい」という話で、全くフォローもありませんでしたから、今考えるとひどい話かと思えます。その現場では計画時よりも負荷設備が増えて受電容量が足りなくなりそうで苦労しましたが、対応について変圧器メーカーなどとやり取りをするうちに、ちょっと専門的になりますが、大学で習った絶縁材料の耐熱特性などの知識が仕事に直結することが分かり、ちょっと電気工学に興味を持ち始めていました。

1985年（24歳）には会社からそれほど遠くない都市トンネルの工事に従事することになりました。その頃、社内で電気工事士の実技試験の支援（勉強会）が

行われていたことや、工具や資材が揃っている現場で空き時間に練習することも可能だったので、良い機会だと思い受験し合格しました。

その後、1987年（26歳）に高圧電気工事技術者を取り、電気に関して自信を持ち始めた頃に先輩から「どうせならば第三種電気主任技術者を受験してみたらどうか」と勧められ、参考書を頂いたこともあり、勉強を始めました。

現在は4科目を3年間で合格すればいいのですが、当時は6科目を一発合格する必要がありました。また、それまでの試験は過去問題を繰り返し行うことで対応できていましたが、さすがに第三種電気主任技術者はそういうわけにもいかず、応用問題に対応できるように基本となるところを理解する必要がありました。

そこで実家に置いてあった大学の教科書とノートを全て取り寄せて見返すことにしました。学生時代は、黒板に書かれたものを単純にノートに書き写していただけでしたが、このノートが要点を突いており非常に役立ったことと、このように学生時代に勉強を行っていれば違う人生だったかもしれないと思ったことを覚えています。

8ヶ月の猛勉強の末、1989年（28歳）に第三種電気主任技術者を取得し、その後、1級電気施工管理技士や1級土木施工管理技士、消防設備士甲種4類など建設会社の電気職としてとりあえずいろんなことに対応できる資格を取得しました。

その頃は、現在で言うICT系で、施工を支援するためにいろんな計測器を建設機械などに取付け、そのデータ（信号）をパソコンで収集・処理し表示するプログラムまで作り現場に導入する仕事を行っており、電気の知識は活かせるのですが、持っている資格とはちょっと違うことを行っていました。

そんな中、数少ないトンネル経験者で、しかも第三種電気主任技術者の資格を持っているとのことで1996年（35歳）に関西地方のトンネルの現場に行きたいという話がありました。やり掛けの仕事があったことやちょうど家を購入したばかりで非常に悩みましたが懇願されて結局行くことになりました。

その現場は、JV（ジョイントベンチャー）の2番

手なので苦勞もしましたが、発注者は電気技術者がメインで、また、主要土木工事JVの主任技術者の中で一番若かったこともあり、非常にかわいがってもらい、また評価もして頂きました。

この工事を終えて戻ったらナローマルチビーム測深器(NMB)による水深測量の創生期にあって、東北地方のダム湖において日本で初のNMBによる全面測量を2年連続で行いました。それを見ていた部長から「NMB測量を子会社の商売にしたい」と言われて2002年(41歳)に子会社に出向することになりました。

子会社ではNMB測量を中心にこまごましたシステムの開発・導入などで全国飛び回り、非常に忙しくしていたのですが、その当時の電気職の部下が「測量業務を行っているのであれば、これを機会に測量士補を受験したい」と協力会社の若手と一緒に受験申し込みをしていると聞いて非常に驚いたことを覚えています。

私としては、建設会社の電気職として必要とされる資格は取得したという燃え尽きた感があり、出張も多く、また年齢的なものもあってこれ以上勉強をする気はなかったのですが、部下が資格を持っていて上司が持っていないのも格好が悪いし、測量を商売にするのであれば測量士補ぐらいは持っていた方が良いという周りのアドバイスもあり、受験することにしました。ところが勉強を始めた頃に、学生の時に測量士補を取られた協力会社の女性の方から「今更測量士補を受けるんですか～」なんて言われて、「なにがなんでも測量士まで取ってやる」と奮起し、2年後の2006年(45歳)に測量士を取得しました。

一緒に測量を行っている協力会社の方からは「専門外の方が測量士をとるなんて洒落になんないですよ～」なんて言われながら、測量士として仕事を行うことはありませんでしたが、自信になったことは確かです。

その後、親会社に戻り、海の建設機械である特殊作

業船の電気設備の設計や建造監督、とある僻地の電気設備の復旧などを担当し、2013年(52歳)に機械と電気の技術者を束ねる部長になりました。

昔は、個人の都合など関係なく、キャリアプランなどもあまり考えてもらっていないように“あっちに行け、こっちに行け”という感じでしたが、たまたま資格を取得するきっかけとなる工事に就けて、また資格を持っていることにより、良い仕事が回ってきて非常に恵まれていたなと思っています。

昨年(63歳)4月に役職を退任し、卒業まであと1年半となった10月に今度は子会社の安全と環境、品質を見て欲しいという話がありました。

担当してくれる方がなかなか見つからないという話は以前から聞いてはいましたが、電気の安全に関しては、それなりに知識はあるものの、それ以外はほとんど無く、品質や環境については関与する程度でしたので「なんで私に？」と思うと同時に「やっていけるものか？」と思いました。

その時、かつて分野が違う子会社の社長になられた高校の先輩が「この歳で声を掛けて頂くことは非常にありがたいことで、二つ返事で承した」とおっしゃっていたのを思い出し、協会の委員などをやらせていただいていた調整を要したので“二つ返事”とはいきませんでした。お話を頂いた1週間後に返事をさせていただきました。

着任して4ヶ月はジャンルが違いすぎてあれやこれやとありましたが、現在は業務に多少慣れ、余裕が出てきて「ん～、ここでまた知識を深めるために資格取得に向けて勉強をするのか～？いや、しなければならぬのか～？」と思い始めているところですが、「でもな～」という気持ちが今はまだ大きい状態です。